

委員から出された意見

第13回PI外環沿線会議

構想段階の区切りにあたっての各委員からの総括的な意見表明

意見

- ・聴取した多くの沿線住民の意見を国と都がどのように反映させ、計画を修正し、合意をまとめていくかが今後の課題の大きな柱である。
- ・本線の整備のみで渋滞緩和の効果があると推計されている。練馬区は青梅街道ICに反対を示すべき。
- ・PI方式による原点からの議論の主旨に沿い、地域のPIも行われるべきである。（岩崎委員）
- ・PI協議の中で何度か練馬問題を検証し、練馬区の実態を少しは理解してもらえたと認識している。
- ・国と都は整備後も評価される外環づくりと地域の都市づくりの基盤整備に予算を配分し、区市は住民とともに国と都に対して車公害と地域格差の解消を求め、区市自らの都市づくりに積極的に取り組むべき。
- ・国と都が構想から事業後の各段階でPI協議の実施を表明したことは評価でき、ぜひ守るべき。今後は各地域の課題への関係自治体の意向等を調整し、PI会議で取り扱い方針を協議すべき。（武田委員）
- ・各委員が自己主張にこだわり、委員の共通認識を欠いた審議が続けられたことが残念。
- ・交通、輸送の手段ではなく、コミュニケーションとしての道の役割があり、まちづくりとは道であると考えている。その道を安全に、大手を振って安心して歩ける町が私たちの住む社会と確信する。
- ・外環整備の決断を早くしてほしい。町はこのままでは死んでしまう。（湯山委員（平野委員代読））
- ・PI形式の協議は、時間をかけ過ぎたと思うが、広く社会に問う点で効果はあったと思う。次の段階で、地域、全体で議論すべき内容と時間管理を決め、効率的な今後の議論のあり方を検討してほしい。
- ・練馬区としては、早急に大深度方式の本線整備の方針を確定すべきであると考えている。ICは必要な箇所に影響を最小限にして本線と同時に整備すべき。地上部街路は本線と別に練馬区のみまちづくりが必要。
- ・現在の外環起終点の自治体として、今後も外環に積極的に関与し、意見を述べていきたい。（平野委員）
- ・杉並は緑、水、自然に恵まれた豊かな環境で町全体が仲よく暮らしているので外環建設には絶対反対。
- ・8月20日の意見を聴く会で、住民は質問が終わるたびに外環建設に絶対反対と叫び、延長して延々5時間もがんばった。国や都は外環反対とする住民の心からの叫びを聴く耳をもってほしい。
- ・国と都は、今後の意見を聴く会の開催や議事概要の送付を約束してくれた。（植田委員）
- ・8月20日の意見を聴く会に142名の参加があり、外環反対の仲間がふえてとてもうれしい。
- ・杉並区ほど多くの緑をもつ森を所有している地区はない。青梅街道ICの整備でケヤキを60本も切ってはならない。1つの道路で、住民たちが昔からつくってきたよい環境を破壊してはならない。
- ・三十数年も放置されたのはもう必要ないということ。静かに暮らしたいので外環はいらない。（宿澤委員）
- ・計画路線のために改増築や事業の継承などに大きな支障をきたしている店舗は近隣の商店街だけでも相当数に上り、早期に必要な議論に目処をつけてほしい。外環本線は必要ならば整備も仕方がない。
- ・青梅街道ICについて多くの地域住民が反対しているが、諸事情から賛成意見を発言できない人もいる。もう一度適切なアンケートをとってみてはどうか。
- ・杉並区と練馬区が、ICに関して意見交換会などを十分しているのか疑問。（土肥委員（菱山委員代読））
- ・杉並区としては外環の意義に一定の理解をもっているが、善福寺地域の環境を重視しなければならない。そのため、大深度地下を活用した外環の整備には基本的に賛成するが、青梅街道ICの設置には反対。
- ・大深度地下方式が環境への影響が大きいと判明した場合は計画をとりやめてほしい。また、関係法規の適用と調査や対策などが十分にされ、その内容も逐次住民と関係自治体に周知、説明してほしい。
- ・国と都が構想段階における結論を出すにあたって、これまでの住民の意見を尊重し、今後の各検討段階でも広く住民の声を聞き、必要な情報を積極的に提供してほしい。（菱山委員）
- ・行政と住民が対等な立場で議論できたこと、会議を公開し、問題点、課題が明らかになったこと、今後も引き続きPIを実施すること、過去の行政の手續などに謝罪があったことは、今回のPIの成果である。
- ・技術専門委員長の記者発表などで国と都がPI会議を無視した行動を続けたこと、必要性の議論が十分にまとまらなかったこと、オープンハウスや意見を聴く会が形式的であったことは今回の問題点と課題。
- ・外環の必要性の資料で、ルートを39年前に都市計画決定していると安易に決めるべきではない。どこが一番必要な場所か真剣に検討することが必要。また、交通量の問題をもう一度検討してほしい。
- ・PI協議会、PI会議において住民に対して納得できる説明が十分なされていないことや現在の世情、国家財政から考えても外環計画は反対である。（濱本委員）
- ・「外環の必要性」は以前より客観的な資料となった。PI手法は、時間管理、専門家の客観的な評価が必要。また、議論テーマを抽出して集中的な討論、委員をテーマで変えるなどを実施するべきだった。
- ・外環は必要性の高い道路である。道路のネットワーク化は重要で、東名以南の発表は好ましい。地上部の影響をPI会議で掘り下げられなかったことが残念。

- ・住民の要望に今後も応答するために各段階の情報の開示が必要。また、早い段階で計画全体のタイムスケジュールを提示してほしい。周辺道路のネットワーク化も区市の都市計画で行われるべき。
(村田委員)
- ・外環のような道路での必要性を含めたP I方式で協議は、今後のPIの道を開く。また、議論の途中で国と都が大深度地下方式の方針を出したことは、P I方式での議論が国の政策に反映された結果と考える。
- ・物流だけでなく、災害時、通過交通の排除の点からも外環は必要である。大深度でも地域環境に与える影響への配慮が必要。また、地上部街路計画も結論を出す必要がある。
- ・国と都は本協議会で協議した内容を十分尊重し、住民のさまざまな危惧に十分説明し、今後も広く意見を求めながら、決定すべき責任者としての責任を果たしてほしい。
(塩沢委員)
- ・構想段階の議論は終了していない。行政は説明するが、その変更には応じない。ルートは一切話し合わず、地上部街路まで持ち出した行政への不信感から外環が必要だとは思っていない。
- ・アクアラインなど無責任な道路が続々と整備されている。外環もその1つになると危惧する。全体として哲学がない。東京都の計画も、車の集中に対しビジョンがなく、泥縄式に道路をつくる形。
- ・現在、東京都の最優先の問題は大震災の対策ではないか。自動車に関する明確な単体規制をつくらなければならない。外環は都市計画道路とは全く別に整備をすべき。
- ・外環が首都圏の交通の渋滞を解消するとは思えない。技術専門委員会での検証も疑わしい。構想の問題についての疑問が解消されたとは到底思っていない。以後も検討する場が必要。
(新委員)
- ・P I方式で会議を運営していくことは困難だと予想していたが、実際そのとおりであった。
- ・三鷹市の東八道路と中央道に挟まれた地域について、JCTやICができれば環境が最悪に悪くなる。
- ・外環は必要と思うが、環境等を十分考慮し、次の段階に進めてほしい。
(富澤委員)
- ・「外環の必要性」は有意義かつ貴重な資料と評価する。今後は具体的な計画をもとに地域への影響などを検討すべき。
- ・国と都は、区市の意見、技術専門委員会のとりまとめや地域住民の意見をまとめ、必要性の是非を早急に決めてほしい。ただし、外環整備の中止も視野に入れてほしい。
- ・中長期にわたるスケジュールづくりを進め、地域住民の理解が得られれば、できるだけ早く建設に着手すべき。
(樋上委員(事務局代読))
- ・外環の事例は大規模事業のP Iという意味で歴史的に大きな一歩。構想段階のP Iのまとめは必要である。今回のP Iでの外環の問題点の議論は、客観的に高く評価すべき。
- ・国や都は、出された疑問点や課題に対し、現時点で一番応え得る基本的な方針案を示し、計画をやめる可能性も含めて、一層議論を具体化させていくべき。
- ・これまで住民等から出た不安や心配は、よりよい道路をつくる上で極めて貴重な意見、提言であり、学びの姿勢が非常に重要である。
(藤川委員)
- ・幹線道路の整備は、利便性や輸送の向上から大変重要。国と都のデータから改めて外環は必要と感じた。
- ・周辺環境への影響やJCT、IC付近の影響はいまだデータも出ず、その対応の議論すらされていない。また、都市計画線内の住民や地権者は建築制限を受けただけで、生活設計も成り立たない。
- ・次の計画段階では地域ごとでの議論を深めることが重要である。JCTやICの周辺住民の生活への影響を考慮し、その影響を軽減する対策を講じてほしい。
(遠藤委員、川原委員(望月委員代読))
- ・地域ごとのより具体的な話し合いの結果によっては、計画をやめることもあり得ることを、「計画段階におけるP I」においても明記し、遵守しなければならない。
- ・技術専門委員会の委員長は、行政にくみした越権発言行為を行っており、委員会の存在を認められない。委員長の真意をヒアリングしてほしい。また、住民側委員が自ら専門家委員会を設置した方がよい。
- ・JCT予定地の緑ヶ丘地区の問題について「構想段階のP I」で補償、解決策も話されていない。住民が納得しておらず、現時点では建設を前提の計画段階の議論に移ることに反対。
- ・構想段階の議論に区切りをつけても、次の段階での見通しが明確でない現段階では、外環の必要性を認められない。
(渡辺委員)
- ・日本が持続的に発展するためには、道路ネットワークの形成が必要。国と都から外環に関する資料が提出され、各委員からも提出された資料を元に構想段階での外環の必要性が十分に議論されたと思う。
- ・構想段階における外環の必要性を総括し、次の計画段階で、具体的なデータをもとに議論を深めていき、生活や環境への影響を軽減する万全の対策を講じてほしい。
- ・調布市は、外環整備に伴う地域の課題解決に向けて国や都と引き続き協議、検討を重ねていきたい。また、今後も外環整備を市民と地域住民の意見を踏まえながら進めてほしい。
(望月委員)
- ・現在、車両が1台も通行していない場所に道路を敷設すれば、環境の悪化は必須で、外環は不要。また、通行量の推計で不明なことが多々ある。
- ・地上部開通の場合、道路状況を監視でき、不要な場合はすぐに公園等への転用ができる等よい点がある。
- ・大深度方式は反対。排出される土壌の分量と活用方法を提示してほしい。シールド工法の機械の地中への放置や、地下資源への影響も不安。既存の地下鉄による環境変化のデータを開示してほしい。

- ・時間短縮や渋滞緩和よりもスローライフを楽しむ政策も必要。今後、外環の情報が発信され、意見を発信でき、公開される場所をぜひ確保してほしい。今後とも細やかな環境調査を行ってほしい。(橋本委員)
- ・大規模工事でのPI手法の運営は有意義であった。国の資料も一定のまとめができたと評価している。これをもとに、委員の意見、また広い地元の意見等を入れ、構想段階での早期な結論を出してほしい。
- ・構造物の安全性と環境問題等、具体的な計画での検証が必要。
- ・今後も情報を伝え、市民、またはいろいろな形での意見を聞く場をもって運営してほしい。(大川委員)
- ・道はみんなのためのもので、都市生活での迷惑はお互いさまである。現代の生活では、人工物と自然との共生、共存をどうしても避けられず、知恵を出して自然界への影響をより少なくしなければならない。
- ・第三京浜、東名、首都高速三号線の車両交通による影響をうけている世田谷区にとって、交通公害の集中を避けるためにも東名以南はぜひ整備してほしい。
- ・関東一円の交通に大きく影響する外環道は、やはり必要である。(秋山委員)
- ・外環の計画地域は、水と緑に恵まれた東京の大切なグリーンベルトであるから、たとえ地下構造であっても慎重に検討されなければならない。
- ・交通の現状は、個人的な仕事以外の目的で乗用車が使用され、その走行量が伸び続けている。車はいくつになっても自分で運転できるわけではなく、環境負荷が大きいというマイナス面もある。
- ・外環の整備効果で特に代替案の議論が不足していた。公共交通機関の利用、貨物自動車の空きコンテナの有効活用などの代替案があり、比較検証が必要。
- ・これまでのPI協議会、PI会議での議論の報告会を各地で行うべき。次に、地域ごとの話し合いの場とPI会議のような全体会議が必要。また、疑問点の意見交換と報告を引き続きしたい。(江崎委員)
- ・「外環の必要性」では、将来の都市構造に関するビジョンがなく、全体的な論理構成がダイナミズムに欠けている。将来的な都市構造の変化を織り込む、多様性、柔軟性が必要。
- ・「外環の必要性」の中で外環の必要性の説明が自己完結型になっている。ボストンのウォーター・フロントの事例のように必要性の理由を関係する住民と共有することが重要。
- ・環境問題の中で客観的な基準値のある項目は、多少の成果が得られたが、影響の大きいJCT周辺の調査が少ない。一方、定性的な評価の項目は、重要な評価項目であるが、期待した成果が得られてない。
- ・外環計画と環境保全は整合性を保つべき。環境保全を地域住民と話し合う場を開設することを提案する。現時点で国が掲げる外環の必要性の理由に関して、賛成とは言えない。(栗林委員)
- ・地域の道路整備と広域的な道路はバランスよく整備することが必要。外環は地下化を前提でネットワーク上必要な道路と世田谷区は考えている。東名以南の検討を行うとの表明は歓迎すべきと考えている。
- ・東名とのJCT周辺や排気塔周辺の環境への影響は極力小さくする工夫をすべき。国分寺崖線・野川の環境に最大限の配慮をお願いしたい。
- ・今後の話し合いの進め方の国のイメージを明らかにしていくべき。引き続き地域住民、より広範囲の住民の方々、地元自治体の意見を十分尊重して検討を進めてほしい。(板垣委員)
- ・外環の必要性は高いと改めて認識した。環境の影響などの具体性が足りないとの指摘があり、次の段階に進むときであると認識している。次の段階に進み、具体的な事柄を話し合いたい。(臼田委員)
- ・PI協議会以来、3年以上にわたる議論で、東京都市圏の交通問題の解決、環境改善、費用対効果などが具体的な数値で明らかになり、改めて外環の必要性を認識した。
- ・自然環境への影響を懸念する意見等が出されたことも十分認識している。今後は外環の構造などを検討し、それに伴う具体的な検討を示し、地元住民や関係者と今後も意見交換を行っていききたい。(山口委員)
- ・構想段階の議論は十分に尽くしてきたと考えている。外環は東京都市圏の交通問題を抜本的に解決し、事業費以上の経済効果が期待できると考えており、外環が必要と改めて認識している。
- ・構想段階では、地域の方々の懸念に具体的に答えられていない。地域への影響をできるだけ小さくしなければならないので、引き続き意見を聞きながら検討を進めていききたいと考えている。
- ・PIに対して反省すべき点があると考えているが、今回のPIの重要性や有用性を改めて認識している。今後の検討の各段階でも、広く住民の意見を聞きながら検討を進めていききたい。(山本委員)
- ・今までの意見を最大限尊重し、さまざまな方々の意見を踏まえ、国と都で構想段階の外環の必要性を検討し、結論を出したい。その結論は、皆様にも説明していききたい。現時点では外環は必要と考えている。
- ・構想段階で外環が必要との結論に達した場合、計画段階で具体的なデータを示し、地域の方々の意見を聞き、計画中止もあり得るとの認識で検討が必要と考えている。その際のPIの方法は、今後相談する。
- ・関越道から東名高速の方向が出た段階で、東名以南についてももしっかり取り組んでいききたい。(山内委員)
- ・「外環の必要性」の資料は国が提示した資料で、このPI会議でまとめられ、オーソライズされたものではない。「外環の必要性」の位置づけ、つくられた経緯についてしっかり書き加えて配布する。
- ・技術専門委員会の委員長の発言に関しては、委員長の真意を確認して、報告したい。(山本委員)